

第 5 回長野県環境審議会（3/22 開催）におけるご意見への対応

1 ゼロカーボン戦略（案）本編について**ご意見**

- ・ エシカル消費やプラスチック対策について、CO₂削減との結びつきを具体化した方がよい。例えば、プラスチック対策によりプラスチック焼却量を減らし CO₂削減につながるなど。（小林委員）

対 応

- ・ 第 6 部第 3 章「第 2 節 エシカル消費を促進する」のリード文として以下のとおり記載しました。

「ゼロカーボン社会の実現には、県民一人ひとりの具体的な行動が不可欠です。環境に配慮した新たなライフスタイルの定着に向け、化石燃料の使用削減につながる使い捨てプラスチック製品からの転換（リプレイス）や、地元商品を購入する地産地消などに取り組む長野県版エシカル消費を推進します。」

- ・ 第 6 部第 3 章「第 3 節 プラスチックの資源循環等を推進する」のリード文として以下のとおり記載しました。

「長野県廃棄物処理計画（第 5 期）に基づく「4 R（リデュース、リユース、リサイクル、リプレイス）」の推進により、プラスチック廃棄物の焼却処理に伴う二酸化炭素排出の削減や、燃やさざるを得ない廃棄物の焼却処分における熱回収・利用等を促進します。」

ご意見

- ・ 森林吸収量の目標に対して、進捗指標になっている間伐面積や素材生産量について、アクションプランなどで目標を設定していると思うが、森林吸収量のグラフに落とし込めないか。（小林委員）

対 応

- ・ 民有林の間伐面積及び用途別素材生産量につきましては、長野県森林づくり指針において令和 4 年度（2022 年度）までの目標値を設定しております。これらの目標値をグラフ上で森林吸収量と直接対応させることは難しいですが、今後の指針の見直しにおいて将来目標値を設定した場合、別表として併記するなど検討させていただきます。

ご意見

- ・ 農業生産現場から排出される温室効果ガスには、CO₂のほかにも一酸化二窒素やメタンもあるので具体的に記載してほしい。（小林委員）

対 応

- ・ 第6部第3章「第5節 農業生産現場における取組を促進する」のリード文として以下のとおり記載しました。

「農業分野では、燃料燃焼により二酸化炭素を排出しているほか、水田や家畜の消化内発酵、土壌等から温室効果ガスであるメタンや一酸化二窒素も排出しています。新たな地球温暖化緩和技術の開発を進めるとともに、有機農業など環境にやさしい農業を拡大します。」

ご意見

- ・ 罰則のある法で回収等が定められているにもかかわらずハイドロフルオロカーボン類（HFC）が増加しているとのことだが、対策が不足しているのではないか。（小林委員）

対 応

- ・ 日本全体においても HFC については増加傾向にあります。これはオゾン層破壊物質であるハイドロクロロフルオロカーボン（HCFC）から代替物質である HFC への移行に伴うものであり、特に冷媒用途からの排出が増加しています。今後も関係法律の適正な執行などにより、HFC の大気排出の抑制に努めて参ります。

ご意見

- ・ CO₂吸収固定の取組をもう少し強調するという意味において、例えば、森林税の事業の中に、CO₂吸収固定を目的とした事業を明示するとか、バイオマスの森林いわゆる天然更新可能な永続性あるナラなどによる森林造成を企画して、積極的な CO₂吸収固定ができるようにしていただきたい。（林委員）

対 応

- ・ 第6部第3章「第4節 森林整備による二酸化炭素の吸収・固定化等を推進する」に以下のとおり記載しました。なお、森林税活用事業における CO₂吸収固定の明示につきましては、今後の森林税活用の見直しにおいて検討させていただきます。

○ 地域ごとの特性を踏まえつつ、広葉樹の天然更新などの自然の力を最大限活用した再生産可能な森林づくりを進めます。

ご意見

- ・ ゼロカーボンの学びの場に地球温暖化防止活動推進員を活用いただきたい。（宮原委員）

対 応

- ・ ゼロカーボン実現に向けては、地球温暖化防止活動推進員の皆様の各地域における活動が重要と考えております。地球温暖化防止活動推進員派遣事業の積極的な周知など、様々な学びの場においてご協力いただけるよう努めて参ります。

ご意見

- ・ ゼロカーボン実現県民会議における意見を施策に反映される仕組みか。(手塚委員)

対応

- ・ 県民会議でのご議論や頂いたご意見を踏まえ、施策を検討して参ります。

ご意見

- ・ エシカル消費の効果がわかる数値目標あれば加えてほしい。(大和田委員)

対応

- ・ 一般社団法人長野県世論調査協会が毎年実施している県民の環境意識に関する調査に基づき、「環境のためになること（環境に配慮した暮らし）を実行している人の割合」を進捗指標とさせていただきます。(直近数値：令和2年度 63.6%)

ご意見

- ・ なぜ長野県が脱炭素に取り組むのかという意義を示した方がよい。他に先駆けて自分たちから始めるということ。(打越委員)

対応

- ・ 戦略本編冒頭の「はじめに 気候変動と 2050 ゼロカーボン」に長野県が脱炭素に取り組む意義を記載しました。

2 気候変動に対する適応策について

ご意見

- ・ 自然災害についての防災・減災についても表に出してもよいのでは。(梅崎会長)

対応

- ・ 別冊1「長野県における気候変動の影響と適応策」の「10 洪水」、「11 土砂災害」において、気候変動に対する洪水や土砂災害に対する防災・減災の適応策を記載しました。

3 信州ゼロカーボン BOOK について

ご意見

- ・ 家庭におけるマイカー利用の排出量寄与は長野県の2019年度実績で39%と全国(29%)に対しても高いので、それについても県民に伝わるよう触れてほしい。(宮原委員)

対応

- ・ 別冊2「信州ゼロカーボン BOOK－県民編－」の4ページに家庭からのCO₂排出量の内訳のグラフを記載させていただきました。今後、ゼロカーボン BOOK を使いながら、県民の皆様にご伝えて参ります。

ご意見

- ・ 信州ゼロカーボン BOOK と長野県環境白書の SDG s のアイコンを整合させてほしい。
(大和田委員)

対応

- ・ 整合させていただきます。

ご意見

- ・ 信州ゼロカーボン BOOK を利用した出前講座があつてよいのでは。(梅崎会長)

対応

- ・ ご意見を踏まえ、信州ゼロカーボン BOOK を利用した出前講座を実施させていただきます。

ご意見

- ・ 牛からメタンガスを多く発生すると言われており、信州ゼロカーボン BOOK- 県民編- に牛肉の絵を記載 (P9 に記載) することは検討が必要。また、フードマイレージの言葉も入れてほしい。(太田委員)
- ・ 牛がいないと循環型農業が営むことができない。有機農業の点では牛糞たい肥も重要。国内畜産の振興もゼロカーボンの貢献になる。牛のゲップについてあまりクローズアップするのはいかがか。(北島委員)

対応

- ・ ご意見を踏まえ、信州ゼロカーボン BOOK- 県民編- における記載を見直させていただきました。(P2 脚注の牛のゲップ関係の記載削除、P9 牛肉の絵の削除)
また、フードマイレージにつきましては、P9 の地産地消の記載で、その趣旨を示すこととさせていただきます。

4 県の率先実行について

ご意見

- ・ 県の率先実行計画に「市町村」も加えてほしい。(宮原委員)

対応

- ・ 県の率先実行計画を取組例として示しながら、市町村の皆様にも取組を進めていただくよう働きかけて参ります。